

# カラマツの枝打ち

カラマツの利用拡大が進むなかで、良質大径材の生産に寄せる期待が大きくなっている。良質材の要件には年輪幅、色つやなどがあるが、カラマツ材の高級商品化を進める上で大きな課題とされるのが節である。そこで無節材の生産に必要な枝打ちについて考えてみたい。

## 1. 低コストによるカラマツの枝打ち

スギ、ヒノキの無節材は、既に高い市場性を確保しており枝打ちに伴う経済性の検討も可能である。ところが、カラマツについては市場性に未知な点が多い。また一般にはカラマツは経費の投入を少なくしたいという観念がある。このためカラマツの枝打ちを考える場合、まず低いコストで行える方法が必要である。

### (1) 枝打ち本数

枝打ちする木は、最後まで残るものだけを対象にする。伐期の本数として良質大径材の生産では ha 当たり330本、良質中径材で ha 当たり440本、位と予想されるので、枝打対象本数は ha 当たり500本程度で足りると思われる。スギ・ヒノキの枝打ちに比べて $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{1}{4}$ の本数でよいことになる。

### (2) 枝打ち回数

木の太りに合せて枝を打つのが原則であるが、カラマツは枯れ上りが他の樹種よりも早いことと、強度の枝打ちでも生長阻害が少ないことから1回当たりの枝打ち量を多くし、枝打ち回数を少なくすることが可能である。従って、8 m 高までの枝

打ち回数を2～3回で済ますようにする。

### (3) 枝打ち器具

カラマツでは、生枝打ちよりも枯枝打ちが多くなるので用具としてはナタやオノよりもノコギリの方が適している。また、後述のように太い幹での枝打ちでよいことから自動枝打ち機の導入に適している。枝打ちの機械化を是非進めたいものである。

## 2. 枝打ち開始時期

カラマツ良質材の製材木取りでは、ネジレの発生し易い未成熟材部分を除くような方法（心去り材、心割材）が考えられている。スギ・ヒノキのような心持角で無節を目標とするものよりは、枝打ち開始時期がおくれてもその影響は少ない。具体的には直径12～17cm以内に節部分をとじ込めてしまえばよいことになる。従って、巻込みに要する期間を4年位見込むと8～13cmの太さで枝打ちを行えばよいと考えられる。

## 3. 枝打ちに伴う問題点

### (1) 枝打ちの適林分

枝打ちを行なううえでどのような林分を対象とするか、地域としてのとらえ方もあるが、地力、地利、気象などの要因について検討が必要である。

### (2) 不定枝の発生

カラマツは、不定枝が発生しやすいので強度の枝打ちを行なうと不定枝の発生が著しいと思われる。不定枝を押えるような枝打ち技術の検討が必要である。



不定枝の発生したカラマツ林

(造林部 三原)